



子どもの森づくり通信

(発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

「子どもの森づくり運動」
フラグシップ園会報
(2014年12月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-10-4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264
http://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



2014年も最後の通信となりました。

皆様と共に推進しております「子どもの森づくり運動」は、今年も着実に活動成果を積み上げさせていただきました。今年一年賜りました皆様のご支援に心より御礼申し上げます。来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。新年が皆様にとって良き年となります様お祈り申し上げます。

(目次)

1. JP子どもの森づくり運動2014 ～一年をふり返って～
 - 1) 東北復興グリーンウェイブ活動レポート
 - 2) 地域での活動レポート
 - 3) 森を体験するプログラム「森の楽園」
2. 事務局からのお知らせ
 - 子どもの森づくり運動研修会2015のご案内

■「子どもの森づくり運動」とは

今子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかし、子どもたち(特に幼少期の)は、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「子どもの森づくり運動」は、全国の保育園・幼稚園を拠点に一貫した森づくり活動を通じて、幼児期の子どもたちに「生きる力」と「健全な環境意識」を育むための自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動」とは

特別ご協賛企業「日本郵政グループ」様との協働で、運動を全国に普及促進するフラグシップ活動を「JP子どもの森づくり運動」、フラグシップ活動実施園を「JP園」として活動を展開、2010年7月、フラグシップ園全国ネットワークが構築されました。

■「子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・後援/協力 : (社)全国私立保育園連盟 (社)大谷保育協会
- (順不同) (社)国土緑化推進機構 NPO法人C・C・C 富良野自然塾
- (社)日本森林インストラクター協会 NPO法人自然体験活動推進協議会
- NPO法人MORIMORI ネットワーク (社)日本オート・キャンプ協会
- (株)実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部 保育環境研究所ギビングツリー



1. JP子どもの森づくり運動2014 ～一年をふり返って～

「JP子どもの森づくり運動」は、今年も参加園の皆様と共に着実に成果を積み上げさせていただきました。そんな一年間をふり返り、来年の糧としたいと思います。共有いただけます様お願い申し上げます。

1) 東北復興グリーンウェイブ活動レポート

① 第1回目の植樹会を開催しました。

2012年秋から始まった「東北復興グリーンウェイブ」の活動が3年目を迎え、5月22日(木)グリーンウェイブの日に岩手県山田町において、第一回目の植樹会が開催されました。今回の植樹会には、31園の全国の参加園から「どんぐりの絆BOX」によって約130本の東北の苗木が山田町に届けられ、山田町の保育園の子どもたちによって地元の森の一画に植えられました。



植樹会記念撮影



植樹会の開会式には、山田町の佐藤町長さんや日本郵政の篠原広報部長さんにもご参加いただき、応援のごあいさつをいただきました。さらに、「東北復興グリーンウェイブ」のキャンペーンソング「♪どんぐりえがお」を歌っている「どんぐりず」のお二人もサプライズゲストで参加してくれ、みんなで「♪どんぐりえがお」ダンスを踊りました。植樹会の模様は、テレビ(NHK全国放送、他)や新聞によって、全国に大きく配信されました。

② 「東北復興グリーンウェイブ」の活動が評価されました。

「国連生物多様性の10年」の広報・教育・普及啓発活動の一つとして、またCOP10で採択された「愛知目標」達成の一助として「国連生物多様性の10年日本委員会」(UNDB-J)が主催し、生物多様性の普及に貢献した活動を顕彰する「生物多様性アクション2014」において、JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」の活動が、グリーンウェイブ賞を受賞しました。



授賞式風景



* 本活動を共に推進していただいている「日本郵政グループ」さんが、企業の生物多様性保全の実践例を顕彰する「第3回いきものにぎわい企業活動コンテスト」において、国土緑化推進機構理事長賞を受賞されました。

3) 「東北復興グリーンウェイブ」のネットワークが広がっています。

2014年12月現在、JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」の幼稚園・保育園の活動参加園が全国で61園となりました。活動のネットワークが着実に広がっています。

2) 地域での活動レポート

「JP子どもの森づくり運動」では、子どもたちに木や森を実感してもらうための様々な体験プログラムを提案しています。主な活動としては、①プランターやポットから発芽したどングりの苗木を「お披露目する活動」②みんなで育てた苗木を植える活動③植えられた苗木を定期的に見に行き、④草刈りなどで「見守る活動」です。苗木は、活動に携わった子どもたちの“大きなあ〜れ！”という願い、そしてそんな子どもたちを見守る保護者や幼稚園・保育園の先生たちの「子どもたちと共に健やかに育て」の願いを込めて植えられ、見守られています。だから植樹した苗木の成長は、それぞれの実施園における活動の成果であると同時に、子どもたちの“育ち”のスケールです。そんな苗木を見守り、その成長をみんなで共有したいものです。今年も、全国でそんな活動が行われました。



6月：富山県「やまむろ保育園」
苗木を見守る活動



10月：新潟県「竹野町保育園」
苗木を植える活動



10月：千葉県「今井保育園」
苗木を見に行く活動

3) 森を体験するプログラム「森の楽園」

事務局では2014年、森の多様性を体験する活動「森の楽園」のプログラムづくりに取り組みはじめました。

『見る』『さわる』『かぐ』『聞く』『味わう』という五感を活かした森の体験プログラムによって、子どもたちの自立心につながる「気づき」を促すことを目的とします。具体的には下記の項目の実現を目指します。

- ①幼稚園・保育園の子どもたちを対象とし、森をフィールドとする体験プログラムを提供すること。
- ②単なる野外活動ではなく、それぞれの子どもたちが、それぞれの子どもたちのペースで森の多様性を自主的に体感し気づきにつながる丁寧な体験プログラムとし、幼稚園・保育園の保育の最前線で活用し得るプログラムとすること。
- ③幼稚園・保育園が、自園の園児に限らず、地域の幼少(児)期の子どもたちに呼びかけて行う地域公益活動としても活用し得るプログラムであること。

○2014年11月開催「森の楽園」シミュレーションプログラム

①アイスブレイク
動物の眼になろう

②森に入ろう
忍者になろう

③森でさがそう
森のたからもの
をさがそう

・日時：2014年11月 ・会場：新宿区「おとめ山公園」

・参加園：新宿せいが保育園 ・協力：森林レクリエーション協会柳原氏



森の体験プログラムについては、以前より「子どもの森づくり運動」参加園の多くから要請のあったプログラムです。

これからも改善を重ねて皆様にお届けしたいと思っています。(写真：「おとめ山公園」における活動風景)

2. 事務局からのお知らせ

<子どもの森づくり運動研修会2015のご案内>

- 1) 主催: NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク(子森ネット)
- 2) 共催: 子どもの森づくり運動普及委員会 九州ブロック
・幹事園: 青い鳥保育園(福岡県) 桃園保育園(大分県)
- 3) 協力: 全国私立保育園連盟 福岡県保育協会 大分県私立保育園連盟 大谷保育協会 他
- 4) 日時: 2015年2月26日(木)、27日(金)
- 5) 会場: 大分県別府温泉「花菱ホテル」
- 6) 参加費: 15000円(宿泊費、交流会参加費含む研修費として)
- 7) 募集人数: 30~50名程度(・最低催行人数: 15名 ・定員: 50名)
- 8) 開催趣旨・目的

- ① 幼児期の自然体験、及び環境学習活動の意義と実践について
- ② 公益法人に求められる地域社会における公益活動について
- ③ 幼稚園、保育園における実践的な防災活動

9) 開催スケジュール案

2/26(木)

13:10 基調講演:「蚕を飼う保育」~ESDの実践事例として(案)~

たかつかさ保育園 園長 藤井修先生 全国私立保育園連盟 保育国際交流運営委員会 副委員長
OMEP(世界幼児教育・保育機構)日本委員会 委員長

14:20 自然体験、及び環境学習活動の意義と実践について

- ① 事例発表: 森の体験活動プログラム「森の楽園」 講師: 森林レクリエーション協会 柳原高文氏
- ② 事例発表: 子どもの森づくり運動 講師: 子森ネットインストラクター 河内和男氏
- ③ 活動普及に向けての意見交換会

16:10 幼稚園・保育園における地域公益活動について

① 問題提起

菊地秀一先生 札幌新琴似保育園 園長 全国私立保育園連盟 予算対策委員会副委員長

② 意見交換会

18:30 交流会

2/27(金)

8:30 講演「3.11を乗り越えて」(仮題)

岩手県立陸中海岸青少年の家 所長 菊地清太氏 元釜石市立甲子小学校 校長

9:40 園における実践的な防災活動について

「本当に子どもたちを守るために」タフジャパン 代表 鎌田修広氏

12:00 終了、解散

~オプション講座(予定)~

阿蘇にて植樹体験活動



* 研修会参加申し込みの詳細は、「子森通信」新年1月号にてご案内申し上げます。

ご不明な点は事務局までお問合せ願います。

* どんぐり博士「育苗講座」は、お休みとさせていただきます。新年1月号より再開します。